

5.15 沖縄平和行進に8,000人 普天間包囲は23,850人で成功

全国から仲間が結集

沖縄の本土復帰から33年目の今年、28回目の沖縄平和行進が行われ、3日間で延べ8,000人が参加しました。

5月12日には那覇市の県立武道館で結団式、13日から15日までは県内5コースに分かれての平和行進、15日には普天間基地包囲行動が行われました。

東コースは、名護市辺野古漁港で出発式を開催。普天間基地の移設先とされているこの地では、地域の人びとが1年以上に渡って防衛施設局のボーリング調査を阻止しています。そうした話しを聞いた後、青い海を見ながら行進を開始しました。西コースは、伊江島から出発しました。伊江島は沖縄の米軍基地反対闘争の先駆けとなる「島ぐるみ闘争」が行われた場所です。南コースは、戦後60年を迎える中で、沖縄戦の戦跡をめぐりました。宮古・八重山では14日に平和行進が行われました。

各コースの参加者は、都市型戦闘訓練施設の建設反対が闘われているキャンプ・ハンセンや、危険と騒音を撒き散らす嘉手納基地など、沖縄米軍基地の現状を間近で見ながら3日間歩き続けました。



もう基地はいらない！

平和行進の最終日となった5月15日の午後、普天間基地包囲行動が行われ、県内外から23,850人が参加しました。

包囲行動には、平和行進の参加者を中心に、野党各党や労働団体、市民団体も参加。また宜野湾市が市民に参加を呼びかけたため、基地周辺に住む人々も集まりました。

普天間基地の外周は11.5キロ。参加者は2時15分・30分・45分の3回にわたって手をつなぎ、普天間基地を包囲しました。



民主・社民・社大・共産が大会出席

—— 各党代表が普天間基地返還を訴える ——



普天間基地撤去で一致

包囲行動終了後、宜野湾市の海浜公園野外劇場では「普天間基地撤去・基地の県内移設に反対する県民大会」が開催され7,500人が集まり、普天間基地包囲行動の成功を確認しました。

主催者を代表してあいさつに立った山内徳信実行委員長は、「世界一危険だといわれる普天間基地を人間の鎖で包囲し、日米両政府に思いの丈を突きつけた」「憲法を守り平和な沖縄と日本を作るためにがんばろう」と話しました。

またこの集会には、民主党の岡田克也代表、社民党の又市征治幹事長、社大党の喜納昌春委員長、共産党の志位和夫委員長と、野党4党のトップが参加。連帯のあいさつに立った各党の代表はそれぞれ、普天間基地撤去と辺野古移設反対への思いを語りました。

4党の党首クラスが揃うのは、沖縄では初めてのこと。沖縄米軍基地問題の解決に向けた、各党の意気込みが感じられました。

反基地運動で政府を包囲しよう

米国は現在、世界的国防態勢の見直しを進めています。この中で、欧州や韓国の米軍は削減されますが、在日米軍は強化の方向で政府間協議が進んでいます。

このままでは沖縄と日本の米軍基地は、固定化されてしまうかもしれません。日本と沖縄をアジアにおける米軍の出撃拠点としないためには、今まで以上に米軍基地に反対する運動を頑張らなければなりません。

青森県三沢基地、神奈川県厚木基地・横須賀基地、東京都横田基地、山口県岩国基地、長崎県佐世保基地など、全国各地の米軍基地で反対運動を作りましょう。沖縄から、日本から、アジアから米軍基地を無くしましょう。

平和フォーラムリーフNO3

発行 2005年5月

編集・発行・連絡先

フォーラム平和・人権・環境

東京都千代田区神田駿河台3-2-11

電話 03-5289-8222 FAX03-5289-8223